

## 令和5年度第2回白井市合計画審議会

### 議事概要

日 時：令和5年7月19日（水）

戦略1－2 午前9時30分から午前11時まで

戦略3－3 午後1時15分から午後2時45分まで

場 所：白井市役所東庁舎1階会議室101

出席者：【委員】

関谷昇会長、野水俊夫副会長、鎌田元弘委員、酒井啓史委員、中原恵子委員  
飛田毅委員、福田純子委員、中野七生委員、宇賀博委員、若旅千秋委員

【事務局】

村越企画政策課長、松田副主幹、多納主任主事、高橋主任主事

【担当部課長】

戦略1－2 働く場を生み出すまちづくり

岡田市民環境経済部長、金井産業振興課長

戦略3－3 拠点を結ぶまちづくり

岡田市民環境経済部長、伊藤都市建設部長

金井産業振興課長、小島都市計画課長、鈴木道路課長

傍聴者：1人

1 開会

2 議題

(1) 勉強会（質疑応答）について

### ○戦略1－2 働く場を生み出すまちづくり

【会長】

勉強会（質疑応答）について、事務局から進め方の説明をお願いします。

【事務局】

資料に沿って説明

【会長】

それでは、お手元にある施策評価シートと、それから事前に御質問を頂いたことに対する回答の一覧がございますので、それらを踏まえて委員の皆さんのほうから質問等をお願いできればと思います。

私と副会長は、要所、要所で発言させていただきまして、各委員の皆さんのほうから事

前に質問を頂いていますので、それらを改めて、全部でなくても構いませんけれども、主だった質問をしていただいて、それに対して担当のほうから御回答をいただくというふうな形で、質問等をしていただければと思います。

どなたからでも、この戦略1-2、働く場を生みだすまちづくりについて、どの事業、今四つほど、事業について御説明いただきましたけれども、どの事業から御質問いただいても構いませんし、可能であれば、ほかの方が御質問いただいたこと、回答いただいたことに対して絡むような質問等があれば、効率的に深掘りができると思いますので、もし関連することがありましたら、そこに続けて質問していただけると回答しやすいと思いますので、併せて御協力のほうをよろしくお願いいたします。

どなたからでも構いませんけれども、いかがでしょうか。

御質問いただいていることを改めて伺っていただいても構いません。もう少しまとめて御質問いただいても構いませんけれども。

#### 【委員】

この事前質問への回答や配付いただいて、今、御説明いただきました施策の参考資料で、非常にこういった取組が進められているということが、私も勉強不足でしたし、こういった説明をいただいたことで本当によくよく理解できましたので、事前にいろいろ質問しようと思ったようなことが今回の事前回答で大分クリアになって、よくよく理解させていただけたかなと思っております。

地区まちづくり協議会が設立されているところに関しては、進捗をすごく感じる部分ではあるのですけれども、逆に、市民目線から見ますと、こんなに土地があって、空き地があって、農地として活用されているわけでもなく、あるいは印西市のほうみたいにニュータウン事業として、企業庁なりURなりが押さえているのだけれども、まだ売れていない土地というわけでもなさそうなのに、これだけ広い土地がというふうなところが市内には散見されるのですけれども。ただ、そこに対して、例えば市全体のここは何々重点地区、ここはまちづくり協議会、ここは何々地区という感じで、そういったこの地区はこういう政策でまちづくり行っていくというふうな政策の光というか、スポットが当たっているわけでもなくというふうなところが市内にはちょこちょこあると思うのですけれども、そういうところに対しては、基本的には市民さんの意向というのが第一にあるというのは、答弁等々聞いていても分かるのですけれども。

そういうところに対して、市として働きかけ、こういった地区まちづくり協議会が発足したところは、本当に土地の有効活用、市の発展、市民の未来に向けた活用がされていく中で、そういった先行事例を一つの説明のベースとして、そういった理由の方向性がまだ不確定な、とはいえ、白井も印西に比べると、そこまで大きな面積もなく、ほぼほぼニュータウン計画で確保された土地の利用は、ほぼ進んでしまっているのです、ニュータウン計

画の当初には営農調整区域というふうになっていたところが、世代交代や農業の後継者不足や離農等で、こういった形で利用の新陳代謝が起こっていった、ニュータウン開発の30年、40年、50年、次の30年、50年に向けた開発が進んでいると思うのですけれども、そういった地区が新たに生まれていくような形の取組や働きかけをされているのかなということや、ちょっとデリケートなテーマですけれども、何か伺えればなと思います。

**【会長】**

では、今の御質問について回答をお願いいたします。

**【産業振興課長】**

そうしましたら、大きな回答になってしまうのですが、市の土地利用方針、土地利用の計画ですね。というのが二つありまして、都市マスタープラン、こちらはどちらかというと、土地活用のほうを主体とする計画なのですけれども、そちらのほうでも、開発すべき緑地とか農地として守っていく区域と分けています。

それと、総合計画の73ページにもあるのですけれども、農業振興地域整備計画、この二つが市の土地利用の二大計画になります。こちらのほうは農業の振興の計画をメインに立てています。こちらのほうで市域をどういうふうな利用にしていきたいと思いますかという計画を定めています。

先ほど説明があった事業候補地、14か所あるという説明があったかと思うのですが、これは都市マスタープランも農業振興地域整備計画も、両方とも保全していくという区域についても位置づけています。ですので、都市マスを変更しなければならない、もしくは農振計画も変更しなければならないというところも位置づけていますので、計画の変更がなければ企業誘致が進まないところもあります。

なぜそういう地域を候補地に選んだかといいますと、白井市って市域が狭い。千葉県内54市町村中41番目の広さしかないのです。先ほど委員がおっしゃったように、千葉ニュータウン区域はほぼほぼ整備が終わっていますので、隣の市みたいに余っていないのです。そこに企業誘致はできないとなると、どうしても市街化調整区域のほうに誘致が必要になるなど。そうしますと、農振計画で保全という区域であっても候補地と。地域全体が企業誘致できれば候補地に入りますので、候補地にできる場所は理由がありますので、そういう理由があるところを令和3年度に実施した産業用地確保検討調査で、14か所になります。

ですので、当分の間、この企業誘致、土地利用の計画です。企業誘致に特化しますとこの14か所、こちらのほうを優先して進めていく。上位計画を変更しなければ進めていけないところもあるのですけれども、取りあえずは、企業誘致に関しましてはここを進めていく。もっと大きな、この上にある都市マスタープランとか農振計画につきましては、次期総合計画の見直しがありますので、そこを総合計画の見直しと併せて、現状に合わせた計画を見直していくということになろうかなという。

これで回答になっているかどうか分からないのですが、そういうような土地利用の、今のところ市が進めている土地利用の方針というところです。企業誘致と、あとその上位の都市マスタープランと農振計画という、この三つ巴で進めていくという形になります。よろしくお願いたします。

【会長】

よろしいでしょうか。

【委員】

ありがとうございます。

【会長】

もし何かあれば。今のことについて、ほかのことでもお願いします。

【委員】

幾つか質問させていただいたのですが、もうちょっと深掘りして教えていただきたいところがあります。2枚目の14、15、16、17、18あたりなのですが、14のお答えの中で、働く場を生み出すのみではなく、一番下の行です。下から2段目、併せて地域活性化の実現を図るなど、一つの取組で複数の課題の解決を図るべく事業を推進している。大変、こういう多次元で問題解決をするという素晴らしいことだと思うのですが、こういう部分を一つのところで複数の課題、働く場をつくるだけではなく。こういう部分をもうちょっと可視化して示していただけませんか。そうすると、こういう事業をやればいいのかというのが分かります。

あと、15番のところ、技術革新の具体的な成果はどのようなものがあるかというお答えに、最後は、技術革新の具体的な成果は見られていないという。これだけの答えでいいのか。それはなぜか。技術革新は何かとか、そこら辺はお答えがシンプル過ぎると思いました。

16番、一番下、創業塾は24名が参加して、1名が創業した。これも創業自体、大変難しい問題があるというのは分かっているものの、24名中1名が創業したという、この成果をある程度、達成状況だと、そんな悪くないとしているのですよね。最終成果がどうなっているのか、その準備のためのいろいろなことが進んでいますよというのは分かるのですが、やっぱり最終アウトカムを見たいじゃないですか。そうすると、その状況が堂々と書けるというのは、なぜなのだろうと思いました。

17番、地区まちづくり協議会、非常に当市、先進例だと思います。地区内で例えば14か所検討されているということなのですが、意見の食い違いがある場合は継続案件として、地区の機運が高まるまでという。こういうスピード感で企業誘致というのは待ってくれるのでしょうか。そこら辺はどう認識しているのかなと思いました。

18番、最後ですが、教育分野との連携や雇用。私、勤めが大学なものですから、企業や

自治体からいろいろな相談が参ります。特にデータ人材の分野で。そこら辺は必要があると考えているというのではなくて、もうそういうところは、デジタルの部分はいわれて久しいです。始まっていないとおかしい。そこら辺はどうなのかなって、お答えを頂いて、さらに疑問が湧きました。

以上です。

#### 【会長】

今、委員のほうから、14から18のところまで改めて御質問を頂きました。既に御回答いただいていることも踏まえて、改めて回答のほう、お願いいたします。

#### 【産業振興課長】

明確な回答をお答えできるかどうかは分かりませんが、14の一番最後に答えている複数の課題の解決を図るべくという、産業振興課としては、企業誘致が要というか、担う事業かなと思っています。2番目の技術革新とあるのですが、技術革新、どこまでをどういう内容、大きな話をしてしまいますと、市レベルではどうにもならない話になってしまいますので。例えば企業誘致で今、データセンターでもいいし、物流でもいいし、そういうところへ誘致する場合は、せっかく市の北側に製造業がたくさん集まっている白井工業団地というのがありますが、そこで誘致する事業で使える部品、そういうものを製造可能な事業者があるかもしれないですし、実際に1社、印西市のデータセンターで消音装置を納品しているという事業者が工業団地にありますので、そういうところと連携させる。せっかく企業を誘致し、市が世話人となって努力して誘致するので、そういうところと連携させる。

雇用のほうにいきますと、物流の誘致ですと、印西市にグッドマンビジネスパークがあると思うのですが、あれ1棟で延べ1,000人の雇用を生んでいます。そういうところと連携して市内の雇用を増やしていく。そういう課題を複数解決するような方法もあります。

創業支援のほうなのですけれども、確かに24名参加して、1名だけが創業というのなかなか少ないのですけれども、そもそも創業する場所、ふさわしい場所というのがある、自宅でやるとかそういう場合だったら、別に問題ないのですけれども、創業にふさわしい場所というのがあると思うのです。産業振興課で駅周辺地域活性化事業という駅前の再編をにらんでやっている事業があるのです。創業するとなると、駅前というのは非常にいい立地なのかなと思います。再編の際に創業できるようなスペース、そういうものを一緒につくって、個人的な考えが入ってしまうのですが、そういうものを支援しながら創業する環境を整えるのです。そういうのも一つの手かなと思っています。

ですので、一つの事業で複数の課題を解決するという、そういうような取組。これは農業部門もあるのですけれども、企業誘致と絡めて農業部門のほうも課題の解決をしていこうかなという、一応そういう予定も立てておまして、産業振興課内の事業をいろいろ連

携させていって課題解決を図る。それと、産業振興課だけではなくて、ほかの課の事業とも連携させて、いろいろ課題を解決していけるような、そういう取組を広げていければ、様々な課題が解決できるのかなと思っています。

教育の関係なのですけれども、縦割りの回答で申し訳ないのですけれども、なかなか教育分野の回答、産業振興課のほうでやりますというのはなかなか難しいかと思うのですけれども、例えば他市の事例になるのですけれども、熊本のほうにTSMCという台湾の事業所で、半導体の事業所が来たのですけれども、そこで非常に学生が増えているという、要はTSMCに就職するために、そういう分野の学部を近くの大学で設けて、それでそこに大学生が増えている、そういうような事例もありますので、例えば企業誘致でそういう事業者を、可能性はまだ分かりません。半導体はまだ細かく調べていないので分かりませんが、そういう事業者を呼んで、大学だけではなくて市の小中学生にも波及させるというか。

あと、実現はしなかったのですけれども、桜台にデータセンター事業者が来ているのですけれども、コロナ前に、教育委員会部門と連携して何かできないかということで話し合っていたのですけれども、コロナが出てしまって、そのままになってしまったのですけれども、コロナも5類に今は落ちているので、その辺の話をまた進めていっていいかなと思っていますので。産業振興課だけでは進められないのですけれども、今後、教育部門に話を持っていってみようかなとは思っているところです。

以上です。

#### 【委員】

直接的な回答はほとんど得られていないので、もう一回確認しますが。今、課長がおっしゃったような、いろいろな、一つ解決すれば、二度三度おいしいというのを可視化をして、みんなが見えるようにして、あと、ここがつながればつながるみたいな、そういう取組を課長だけの思いではなくて、どういう全体像がありますかという、そういう質問だったのです。

あと、技術革新の具体的な成果、これは大変だということなのだけれども、その結果とか、創業塾だとかというような成果として上がっていないという、そこを重点目標に挙げている以上、この取組が、周辺環境がここまでできているよというようなところまでもそうなのだけれども、プロセスがどうかという、プロセスがどこまでいって、そこが本当にアウトカムの指標としていいのかという、そういう質問だったわけです。

あと、地区まちづくり協議会の件、これはお答えいただいていないのですけれども、こういう企業誘致というのは、他市とも競合するわけで、このスピード感に、合意形成のスピード感が14か所追いついていけるかという、そういう質問だったのです。非常にいい取組だからこそ、そこは多分検討する必要があるのかなと思っていました。

あとは、先ほどのTSMC、九州、今、大変なことになっているので、ちょっと参考にならなさ過ぎかなと。周辺の競合する地域だとか、スモール地域の中で何ができるのかとかいう、そこの一步を、コロナの時期ってある意味チャンスだったのですよね。いろいろなオンラインもするので。そういうようなときに、これからスピード感を早める必要があるし、その部分も可視化をして、ほとんど営業戦略で、こことこことあそこの企業をこうやってみんなで手分けして狙いましょうぐらいの、そういう部分があれば、官民連携でやっていけると思うのです。そこのスピード感がまだちょっと見えてこないなという、そこが感想です。

以上です。

### 【会長】

今のお話に絡めて言うと、例えば委員の14の質問のところに、ゆとりあるライフスタイルの実現とあるのですが、若い世代にとって魅力ある産業や雇用が整い、職住近接が進むというふうにうたわれていて、企業誘致が要だというのは、一つの考え方だと思うのですけれども、その中身の部分。どういう企業をどういうふうに誘致して、そこに白井のこの地域がどういうふうに関わっていくのか。若い人たちがライフスタイルを模索しながら働けるのだという、それはどういう企業だと、それが可能なのかというあたりのコンセプトというか、そういったものがあるかどうかという。それが多角的に示されることによって、企業の側も、あるいは地域の側も、その辺がもっともっと密に、その発想が膨らんでいくのではないかということだと思うのですけれども。

これは一つの課題として、ここで確認して、この後のワークショップのほうで、ぜひ委員の皆さんのほうから、ここはこうしたほうがいいのではないかというふうな御意見があれば、どんどん出していただければと思いますので。今の時間は勉強会の時間ですから、こういう課題があるよということをどんどん御指摘いただいて、もし回答があれば御回答いただいて、なかなか進んでいないことがあれば、それは課題として我々の中で共有できればと思いますので、そういったことも課題だということは併せて指摘いただきたいと思います。

### 【産業振興課長】

地区まちづくり協議会の回答が抜けていました。確かにそのとおりなのです。需要を逃す可能性も、外資の場合は3年、外資以外だと5年と、よく話を聞くのですけれども。

ただ、地区まちづくり協議会の地域は個々の地権者が、市が自由になる土地ではないので。やはりその辺は、市がもう少し汗かいて、地権者に積極的に入って行って、個々の地権者が持っている課題とかを洗い出して、その解決方法を探してあげて、それでスケジュールを早めていくしかないとは思うのですけれども。

ただ、人員の問題がありますので、今現実に3名しかいませんので、14か所全部を3名

というのはとても無理ですので、その辺は人員と併せて、どこが可能性があるかとか、あまりここでは言えないですけども、可能性が高い地域については積極的に地権者に入って、なるべくスケジュールが早くなるような形で進めていっているところです。今のところ。

それと、会長がおっしゃられた需要の問題ですね。需要の問題でいいますと、この市の需要は、全国的な需要もあるのですけれども、データセンターと物流が非常に需要が高いかなと。データセンターでいいますと、新京葉変電所があって電力は十分にあるし、隣の印西市は、データセンターが今、集積しているという例もありますので、データセンターは非常に需要があると。

それとあと、北千葉道路の計画がありますので、それに合わせた、あと16号ですか。国内でも有数の交通量の多い16号がありますので、物流の需要、こちらのほうが高い。

データセンターの場合は、メインで働く人たちがSEですので、それこそ教育とか何かでSEを育成していくような施策がないと、データセンターができました、そこに市内雇用を生みますというのはなかなか難しいのですけれども、物流の場合は、多くの雇用を生みますので、その辺は市内雇用、雇用の事業と連携しながら雇用を進められるのかなという思いはあります。

以上です。

#### 【会長】

一つ伺いたいのですけれども、ちょっと角度を変えて言うと、雇用を生み出すまちづくりというのは、いわゆる地方創生の動きとかなり連動している部分があって、地方創生のコンセプトというのは、その地域の若者たちが、その地域と絡めて学び、働く、そこを結びつけていくという発想なのですね。ですから、どんどん白井の若い人材というものが出て行ってしまうというのではなくて、仮に出たとしても、また白井に戻ってきて、ここで働いていけるという、そういう人材の集積というのでしょうか。これが地方創生の一つの狙いで、そういったことにこうした企業誘致であるとか、先ほどから言っている多角的なつながり、コンセプトというものを絡めて進めていくということが、大きな流れとして問われているところかなというふうに思いますけれども。その点はどんなふうにお考えですか。

つまり、人材育成という部分と、こうした企業誘致というか雇用というあたりの積極的な結びつき。例えば地方創生の文脈で言うと、よくプラットフォームづくりなんていうことが言われて、そういうプラットフォームづくりと、ここの地区まちづくり協議会というのは、どんなふうに絡んでいるのかどうかというあたりもよく分からないところもありますので、その辺も含めて、どんなふうにお考えになっているのか、お聞かせいただければと思います。



### 【企画政策課長】

まだ具体的に何かということはないのですけれども、先ほど産業振興課長のほうが、市内の進出したデータセンターの会社と、小学校、中学校とつながるような話がありましたということがありました。そういうことを踏まえて、今、コロナの関係でそういうのができなかつたというのがありますので、それが今、回復してきたことで、これから進展していこうというお話もあります。

それから今、業者、企業との連携協定という形で白井市が進めていっている中で、先日、ある会社さんと大山口中学校の生徒さんとで、将来ということではないのですけれども、プログラミングの授業というのですか、企業の方が直接そういうことを教えるような場というの、今、取組が始まってきているところもあります。そういうことを経験していく中で、まず業種に魅力を感じてもらおう。そういうような、例えばデータセンター、今、産業振興課長のほうからS Eがという話がありました。データセンターであれば、当然必要なのがS E、そういうことを経験した子供たちが、市内で勤めるところがあるということが分かれば、当然、市内で定住していただくこと。これが市としての人口の流出を防ぐというか、地方を創生的な発想の一部にはなるのかなというふうには、私ども企画政策課のほうとしても感じているところです。

もっと広く言ってしまうと、企業誘致を進めることによって、市内に雇用が生まれる、雇用が生まれれば、当然、定住人口も増えていただきたい。これは基本的な部分はありませんけれども、それから昼間人口も増えるだろう。それによって必要なものは、飲食が必要になる。飲食が市内に展開されれば、どんどん市としての地域の活性化につながるのではないかという、希望の部分も大きいのですけれども、そういう発想を今持っているところではあります。

### 【委員】

多分、会長の言いたいことと私が聞きたいことと、ちょっと違うかなという気がしたのです。例えばデータセンターでS Eが求められて、物流分野の人と、それからローコストオペレーターとか様々な職種があつて、そんなには多くない。例えば、そういう若いS Eが白井で育って暮らして、その中で当然、住んで、緑が豊かで半農半Xみたいな、そういう大変通勤時間がない余裕ある生活が生み出されていく。そういう人たちが子供に届くとか、そういう人たちが1人でも増えていく、そういう姿を見て初めて、なるほど、こういう人を増やしたいのだと分かるじゃないですか。定住人口は何人、これは何人って行政用語ですよ。市民に届きにくい。せつかくゆとりあるライフスタイルの実現ということで、そこへ抽象度が高い表現だから、今の言葉を借りると、もっともっとリアルな、そこでそういう人たちがここにいて、その人たちに話をしてもらおう。そうすると幸せが届くじゃないですか、最終的に。仕事は手段でもあるし、生活の大事なところなのだけれども、それ

と、ゆとりあるライフスタイルがセットで使われると、そういう工夫が。全体が可視化されているでしょう。そうすると、いろいろ業務がくつつくじゃないですか。

それがセットで見えると、こういういろいろな多角的な視点から総合政策を検討しているという効果があるように見えるじゃないですか。みんな行政用語に落ちてしまっているというか、それは気持ちは分からないでもないのだけれども、市民からしたら分かりにくいじゃないですか。参考にさせていただければと思います。

#### 【会長】

ありがとうございます。この後、ワークショップでも、御意見としていろいろ盛り込むことができれば。まさにそういういろいろなつながる企業の立場、それから住民の立場、子供たちの立場というふうに、それぞれから見たときにどういうふうにつながれるのか、どういうふうに関わっていけるのかというふうなことがあっての可視化されてくると、どの立ち位置からでも、いろいろな動きというのにつながってくる。これがまだまだ縦割り化してしまっているという部分があって。これは、以前からこの審議会でも議論にはなっているところですけども、そこをどういうふうにつながれるように見せられるかどうかというのが一つの大きなポイントかなと思います。

あと、学びと働きというものを結びつけていくというのは、いろいろなフェーズという理想があるわけで。例えば、子供たちにこういう働く場があるのだということを見せていくということがあれば、もっと高度化していけば、技術革新、知識、イノベーションの現場という部分がどういうふうに見せられるかとか、そうではなくても、ほかの自治体どんどんやっています。知の集積ということで。そうすると、若い人は全部持っていかれるのです。そんなに若い人、人数いませんから。

そういう意味では、白井ならではの知の集積というものをどういうふうに見せていけるのかというあたりも大きな課題かなというふうに考えますので。そのためには、学びの場だけではなくて、こういう働き場もあるのだ、こんなふうな生活スタイルにもつながるのだと、こういうものがトータルに見えてくるということが非常に大事で、その中にこの課題を位置づけていくということが大事だということは、今の話で少し浮かび上がってきているところですので、この中でも協議をしていきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

#### 【委員】

今さらの話なのかもしれないですけども、地区まちづくり協議会、先ほど説明した冊子の中に、57個も協議会があるといったのですけれども、以前もいろいろな話合いで、小学校区でまちづくり協議会をつくっているという御説明を聞いたのですけれども、小学校区のまちづくり協議会と冊子の17個の協議会とは、別のグループなのですか。

#### 【会長】

その点、いかがでしょうか。

**【市民環境経済部長】**

御質問ありがとうございます。今、委員さんからのお話の小学校区のほうのまちづくり協議会に関しましては、地域の小学校区の中で各種団体が様々な分野、例えば交通安全ですとか、防犯とか、PTAの方々が様々な分野で活動しておられる方々を一つの協議会として、地域全体で地域の課題を解決するために組織をしましょうという、そういう取組が小学校区のほうのまちづくり協議会になっていまして。

今回の地区まちづくり協議会に関しましては、これは地権者の方々の集まりがこの地区まちづくり協議会になっていて、この地権者の方々の土地利用を、自らの土地をこの地域全体として、どのようにまちづくりに進めていくかというような、そういう取組の内容となっていますので、別物ということになっております。

以上です。

**【委員】**

ありがとうございます。勉強不足で申し訳なかったですけども。

17個の中で、例えば6番などは活動が終了しているのですけれども、正直、平成21年とか27年とか、かなり前から設立されている協議会もあるのですけれども、もう10年ぐらい経っているところもあるのですけれども、ほかの協議会で活動を終了するとか、そういうのではないのでしょうか。長々やっても、正直、何をやっているのかとかいう疑問があるのですけれども。

**【産業振興課長】**

地区まちづくり協議会というのは、まちづくり条例上の見解で、説明にあるとおり、地域住民で設置されている協議会で、この区域内の方針や建物に関するルール、そういうものをつくっていきましょうという条例上の協議会です。

6番だけが特殊かなと。今ここで工事が始まっていると思うのですが、そのところが6番の市役所周辺地区まちづくり協議会になります。別に終了しなくてもよかったのですけれども、もう工事が進んできたから協議会自体を終了しましょうということで、6番の市役所周辺地区まちづくり協議会は終了になりました。

必ずしも企業誘致のためだけに、書いてある企業誘致のためだけではないので、4番目に南山三丁目地区まちづくり協議会とあると思うのですけれども、ここは既にニュータウン区域で住宅が張りついていた区域なのですけれども、敷地二つが空いて、アパートの建設が進もうとした区域で、環境が悪化するのではないかということで南山三丁目地区まちづくり協議会をつくって、三丁目地区のルールをつくりましょうということで立ち上がったのです。地区計画というのですが、強制的なルールを作る場合には、ここに住んでいる地権者のほぼ100パーセント同意が必要になってきますので、なかなか強制的なルールとい

うのはできなかったのですけれども、地区まちづくり計画という、もう少し緩い計画になるのですけれども、こういうときはこうしましょう、塀の高さはこの高さまでにしましょうという、そういう緩いルールにはなるのですけれども、そういうルールを一応つくって、今のところもまだ活動しているという地区になりますので。

必ずしも、目的が終了したから協議会は終了しなければいけないというわけではありませんので、また新たな課題ができてきた場合は、条例を読んでもらえると分かると思うのですけれども、地区まちづくり協議会の取組を、要は協議会ができていますと市は支援しなければいけない。ですので、この協議会は終了させないで残しておいたほうが、個人的には、私はいいのかなと思いますので、6番目のほうだけは、特殊というふうに考えていただいたほうがよろしいかと思います。

以上です。

**【委員】**

ありがとうございます。

**【会長】**

ほかにはいかがでしょうか。

地区まちづくり協議会について御質問頂いていますが、いかがでしょうか。

**【委員】**

皆さん、いろいろ御意見ありましたけれども、ダブるかもしれないし、また細かいかもしれないけれども、こういう機会なのでお聞きしたいと思います。

というのは、企業誘致奨励金制度の適用がないということがありまして、市街化区域となるため、いわゆる空き地が見当たらないので、非常にこの制度が停滞しているかもしれないという回答を頂きました。それで、産業用地の創出の見込みのなか、地区インフラ整備に民間資本を活用する新たな制度を設けたいと書いてありますが、この補助制度がないため、補助制度がないので、これは早急にアフターケアしてあげないと、企業のほうもなかなか参入しづらいのかと思います。その辺は早めに進めていただいたほうがよろしいかと思います。

我々は委員として、今回の評価ということになると思うので、この辺の進め方の具合が、検討はしているのでしょうかけれども、見えてこないと、実際、市民として、どう動いているかというのは分かりづらいのです。

最後に述べようかと思ったのですけれども。1の評価というのは、評価書を見て、少なからず理解するのですけれども、実際に何をしているか、どういうところが結果として進行しているか、また、進捗の結果として、どれだけ地区のことに興味を持って、こういうことをしているのか、一般市民にはちょっと難しいのかなと思います。

前回の最後にもちょっと述べたのですけれども、やっぱり評価シートは、あくまで評価

の中で、例えば、まち協はその5か所も進んでいるというのは分かるのですが、具体的にどのように進んだのかを記載していただかないと、一般市民は多分分からないと思います。ネットで見える機会もないため、どこかに分かり易く記載していただきたいというのが一つの意見です。

あと、まち協について、先ほど委員の方が言われた、時間の進捗を見ながら早急に対応していく必要で、まち協の取組をしているのは分かるのですが、どのようにしていくのか、例えば今回の第5次総合計画では多分解決しないと思うので、引き継がれるのかなと思っています。先ほど会長も言われたように、これから新しいところで、見直しながら取り組んでいきますとおっしゃったのですが、まちづくりは、5年とか10年でなかなか解決できないことが結構あると思います。そこをいかに市民が、白井がこれだけ進んで、ほかの市に負けない、ほかの市に比べて、ここは進んでいるということを見せてあげないと、若者は白井市に移住しにくいのかと思います。

最後に、市長の方針とか総合計画があるのですが、産業技術とか産業に対して、白井はどんなことを望んでいるのか。これは協議会に記録が残っているかどうか知りませんが、施策の中でこういうことを考えて、実際にはこうなっているのですよということを教えていただくと非常にありがたいし、また、それが市の施策として、より市民に分かやすいと考えますので、ビジョンとしてどう進めているかを教えていただきたいと思います。

#### 【会長】

今の点について、お願いいたします。

#### 【産業振興課長】

そうしましたら、産業振興というか、このセクション部門の話だけでいってしまいますと、例えば企業誘致の件で言いますと、産業振興課が進めている企業誘致というのが、資料の5ページに協議会設立に向けたフローとあるのですが、産業振興課が進めているところは、このSTEP10の事業化の決定までです。この後には都市計画課の手续とか、農地の場合は、農地の手续とかが入ってきます。その場合は、当然オープンになってきます。都市計画審議会とかそういうところにかかってくるので、それまでの間をオープンにするというのは、地権者との話合いとかそういうものが出てくるので、なかなか難しいのですけれども。

ただ、官民連携でやっていますので、民間事業所を募集しなければいけないので、事業者、ここにあります事業検討パートナーを募集する際も、実際に事業を行う事業者を募集する際も、ホームページとかで事業者を募集していますので、公というか、もう少し大きなPPP・PFI協会というところでも募集はかけています。そういうところはオープンになるのですが、なかなかその間で地権者でどういう話合いをしていたかというの

は、オープンにするのは難しいかなと考えております。企業誘致の場合は、そのような形です。事業者を選定する際に、どの地区で募集していますよというのが表に出ると、ある程度、地権者の方針がまとまって、事業化に向けて進めていく、今度は手続に入っていくと、そこからまたオープンになっていくという、そういう形で市民にはオープンになっていくのかなと思うので。

それ以外で言いますと、例えば、どのような事業を。

#### 【委員】

公表できないことがあるのは当然分かるのですがけれども、進んでいますよという事務方なりの見せ方をちょっと工夫していただければありがたいと思います。

#### 【産業振興課長】

ちょっと検討させてもらいます。

あと、もう一つが、傍聴に議員さんも来られていますけれども、議会で質問してもらおうというのも一つの手かなと思うのです。当然、中継もされていますので。その辺も、事務方が活用するというのも失礼に当たると思うので、その辺も含めて、市民に可能な範囲でオープンにしていければなと思っています。その辺ちょっと検討させていただければと思います。

以上です。

#### 【委員】

会長や委員のお話聞いていて課長のお話、双方の話聞くと、すごく感じましたのは、我々市民の側として、産業ビジョン、誘致ビジョンのようなものを見たいということだと思うのです。白井の産業はこういうふうなイメージを描いていますと。そのイメージで、本当にグローバルに創業からスタートアップから、あとは外資も含めた大企業に至るまで、様々なマイクロ、マクロなものを誘致していくことだと思うのです。

事例は昭和のものまで入ってきますけれども、九州だったらシリコンアイランドだったり、つくばであったら研究科学都市だったり、アカデミアパークだったりとか。だったら白井はこうなのだというふうなイメージやビジョンを描いたほうが、なるほど、白井はそうなのかというふうな形がすごく見えやすくなる。

ただ、課長のおっしゃるとおり、そのビジョンは、市長であったり議会であったり、政治の場のほうが示していただくものであって、その示されたビジョンの限りにおいて、事務方のほうは、粛々と政策を様々なフレームワークにのっとなって進めていく。その進捗を管理する立場なのだというふうなことも、答弁聞いていてすごく感じましたので。この辺の市民が求めているものをどのような形で、議会、市政、事務方の三位一体となつての課題なのかなと思いますけれども、そこの部分を感じました。

いい意味で白井は、そこは全て、どの分野でもウエルカムなのですよという、だから白井

はホワイトなのですという、真っ白な地なので、どんなところが来てくださってもいいのですという、それはそれでブランディングの発信だと思えますし。

一方で、現実問題だと、企業誘致は何だかんだいっても、物流拠点かデータセンターそれはそれでいいと思うので。

ただ、お話伺っていると、現実には工業団地があるので、やっぱりスタートアップであつたりとかいうところも、製造拠点を持っていないけれども、企画力があれば、製造拠点は市のほうがマッチングできますということは、これはこれで非常に分かりやすいと思えますし、そういうイメージを発信して、そこは印西と違うところだというような発信の仕方もできると思うので、そういうふうなこととかができていくと、また市民の側からも、なるほど、これは白井が発展するビジョンなのだというふうなことが見えやすいのかなというふうには感じました。

**【会長】**

いかがでしょうか。

**【産業振興課長】**

ありがとうございます。企業誘致基本方針というのは、これだけではなくて、肝心なところが資料についていないのですが、1ページ目に目的、位置づけがありまして、基本的方向性につきましては、産業振興ビジョンから持ってきているのですけれども、地域経済の活性化と雇用機会の創出と、産業振興課が言うのはおこがましいのですけれども、財政基盤の強化、この三つです。

誘致すべき産業施設は四つ挙げています。14か所に誘致するものについては、生産流通産業、要は物流です。あと次世代成長産業、データセンターとか、可能性があるかどうか分からないですけれども半導体とか。それと集客施設、業務施設等。北環状線沿いにベルクが出たかと思うのですけれども、あのような施設。それともう一つが、言い方が悪いですけれども、農地を潰して誘致しますので、大規模施設園芸とか六次産業化の施設、この四つを14か所には誘致していこうという方針は立てています。

以上です。

**【会長】**

ビジョンについて、中身もお尋ねになっていますけれども、もし何かあれば、御質問いただければと思います。

**【委員】**

私も事前の質問票でお尋ねさせていただいていたのですが、先ほどあつたように、市民にどういうふうに市が掲げているものを分かりやすくというのは、とても大切なのかなと思っています。それを今一度、広報なのか、いろいろなツールはあるかと思いますが、市民に示していく必要性はあるのかなと思っています。

あと、委員のほうからもありましたように、ゆとりあるライフスタイルと、アバウト的な表現をされてはいるのですが、そのほかのプロセスというか、その辺はちゃんと市民に伝えて、見える化というのはとても大切なのかなと思っていて。私が質問した内容に、第何条云々と書いてありますけれども、それを言われても、市民って目に入るものが一番で、ここをこういうふうに御回答されても、そうですかって納得する市民っていないのかなと思うので、もう少し市民に寄った形の表現を提示するとか、誰が見ても分かるというようなやり方は、市のほうでも工夫されるべきなのかなというふうに正直思いました。

あと、委員のほうからありました16の創業塾、24名参加されて1名の方が創業ということで、1名の方は成功体験というところで、成功されたケースなのでしょうけれども、残りの23名の方は、どういうふうな事情があって、何が障害だったかという、そういうところも洗い出していくことで、何かヒントにつながるものも出てくるのかなということ。あくまでもここには結果だけで、その間を公表するというのも次につながるのかなと思って。そこら辺がどういう障害があって創業につながらなかったのかなというところも、興味があるところではありました。

以上です。

#### 【会長】

その点、お願いします。

#### 【産業振興課長】

創業の関係なのですけれども、24名中1名が創業しているというのは、23名が駄目というわけではなくて、まだ今検討している、たまたま去年までに1名が創業したというだけであって、23名全員、諦めたわけではありませんので、これから創業する方が増える可能性もあるということで、一応つけ加えておきます。

あと、見える化については、これは産業振興課の事業だけではないと思いますので、その辺は企画政策課のほうと相談しながら検討できればなと思っています。

以上です。

#### 【企画政策課長】

このテーマが産業振興課のテーマなので、産業振興課だけに限らず話を、私、企画政策課のほうから、全体的な話としてさせていただきますと、よく委員さんおっしゃるとおり、市の職員って見せ方があまりうまくないと、どうしても言われてしまいます。こういう文書、回答するにしても、どうしても普段から使っている言葉を市役所の職員、使いがちになってしまうので、市民にはなかなか伝わりづらいということも盛っているつもりなのですけれども、つい説明するとなると、根拠を示したいとやっぱり思うので、こういう書き方になってしまっているの、そういうことも含めて、これから全体的に見せ方というのを勉強していかなければいけないのかなと思っています。



それと、もっと分かりやすく簡単に示せるものがある話がありましたけれども、例えば産業振興ビジョンであれば、こういうものは、こうですよ一つの、ペーパーであればA4一枚で概要ですとか、ちょっとした絵を使いながら説明できるようなポンチ絵、そういうものを駆使して、分かりやすく何か示せるようなものを用意できるように、産業振興課に限らず、市全体として、その見せ方ということを工夫していけるように、これから努力していければと思いますので、大きなことは言えませんが、楽しみにしていただければと思います。よろしくお願ひします。

#### 【会長】

先ほどから出ていることなのですからけれども、働くということ、学ぶということ、地域を活性化するということがつながるような絵が見えてこなければ、それぞれ子供たちにせよ、企業にせよ、住民にせよ、なかなかイメージも湧かないし、関われないというところが。役所内からすると分野横断的な話になるけれども、そういうことって、今後検討していく場、つまり、それぞれ担当部署があって、そこもかみ合わせていくような議論をする場というのは、役所内に体制的に可能なのですか。それがないと、結局、連携が大事だと言っても、言って終わってしまうと思うのですけれども。その点はいかがですか。

#### 【企画政策課長】

私のほうからお答えさせていただきますけれども、もちろんそういう場というのは、目指すところは、市全体の利益というか、全体をどうやってうまく回していくかということなので、当然そういう場づくりというのは必要であると思いますし、やっていくべきだと思います。

例えば、その一つのものとして、この総合計画というのは市の大きな政策の柱になってきますので、関谷先生がおっしゃるとおり、それぞれの分野がうまく伝わるようなもの、ビジョンとか絵でも確かにいいのですけれども、そういうものをもっと分かりやすくつながりというのでしょうか、つながりがあって市の目指す姿というものを見せられるようなものを示していけるようにしたいなと、改めて今日は思ったところです。よろしくお願ひします。

#### 【市民環境経済部長】

今、企画政策課長も言っていましたが、働く、つながるという施策としての内容については、きちんと内部でもできるようにこれからはしていきたいと思っておりますが、今回は一番、委員さんから質問が多く出ていたのは、企業誘致、特に地区まちづくり協議会の進捗状況と、その見える化というお話が出ていたと思っておりますが、今回、私たちが取り組んでいる企業誘致は、課長も何回も説明をしておりますが、もともと市街化調整区域にあります農業振興地域となっているところが多くの企業誘致の候補地になっている場所だということなのです。

ですので、ある一方では企業誘致をして、雇用の確保、税収のアップ、増収ということも考えていかないとはいませんが、農業振興しなくてはいけない地域になっているところを、潰して企業誘致化していくということについてのバランスというところが非常に重要なわけなのです。それによって、地域住民の方々からの他の市でもいろいろと裁判というようなお話も出ていたりとかいろいろありますから、そういったところを産業振興課のほうでは、きちんと丁寧に、まずは地権者の方々との合意を取って、それから具体的な計画が決まってくれば、周辺住民の方々に説明会をしたりとかというような、そういう一つ一つの手續が重要になってきますので、なかなか正直申し上げて、進み方が遅い、または進捗状況の見える化ができないというところは、ちょっと委員の皆さんにも御理解をいただきたいと思っております。

以上です。

#### 【会長】

今、部長おっしゃったように、農地の問題をどうしていくのかということとの関わりがあって、なかなか市民の目線からすると分かりづらいというところは、どうしてバランスを取るのだということも、なかなかイメージしづらいところもあったりはしますが、でも、そういう状況の中で進められている取組だということは踏まえていただければというふうに思っています。

そろそろ時間ではあるのですが、まだ御発言されていない委員の皆様、いかがでしょうか。

#### 【委員】

ちょっと確認したいのですが、取組内容のところなのですが、就業支援というところで、私も事前に目を通していなかった部分が多かったのですが、若者に向けた支援、高齢者向けの就職活動支援セミナーを開催したとあるのですが、例えば若者向けとか女性向け、高齢者向けというのが、どういった区分で分けていたのかというのが気になったのです。

若者向けとなると、若い人しか働けないような仕事となると、これからずっと働いて定住してもらおうとなると反してきてしまうのかなというのも思いますし。あと高齢者向け、女性向けというのも、そこの一部だけを集中してセミナーを開催しているような、全体的にセミナーを開催したほうが、後の定住にもつながっていくのかなと感じるのですが、そちらはどうでしょうか。

#### 【産業振興課長】

雇用支援は非常に難しいところがあるのですが、全体につきましては、無料職業紹介所がありますので、そちらのほうの動きで賄えると思うのですが、特出しで一応セミナーというのは出ています。

これは市単独ではなくて、鎌ケ谷と印西と白井市でやっているのですけれども、雇用はやはり需要と供給、求める事業者さんと働きたい人のマッチングが重要になりますので。事業者さんが、若いときに働いてもらって、ずっと長い間働いてもらいたい、そういう人を求める場合もありますし、あと、今、高齢者も、非常に元気な高齢者というのもありますので、会社を定年したのだけれども、まだ働ける、働きたいという方もありますので、そういう方向けのセミナーというのがあります。

あと、若者では、よく雇用氷河期とかという言葉もあったかと思いますが、タイムリーに就職できなかった人たち向けのセミナー、そういうものも若者向けという形でやっておりますので。あと、女性には女性向けという形、子育て終わって働きたい人たちとか、そういう、あくまでも全体のセミナーではなくて、若者向け、女性向け、高齢向けという形の特出しのセミナーという形でやっています。全体につきましては、無料職業紹介所の運営ということで賄っているところであります。このような回答になります。

#### 【会長】

課題出しということで一言だけ申し上げておくと、雇用をどういうふうに媒介していくのかという中で、今の若者たちは働き方が変わってきていると思うのです。うちの学生たちを見ていても、一つの企業で働き続けるという感覚は、大分薄れていますね。そういう中で、自分の持っているものを生かしたいというふうな視点でいろいろな企業を見ている若者たちが非常に増えていますから、そういう受け皿というものがつくられていくかどうかというのも非常に大きな課題だということは、この後のワークショップの中での課題としても、共有していただければと思いますので、それを含めての話だということは、お伝えしておきたいと思います。

ほかにそろそろ時間ですけれども、いかがでしょうか。

#### 【委員】

いろいろ意見があって、私は、もちろん行政の立場で仕事をしているわけではありませんけれども、産業振興条例づくり、そしてまたネットワーク会議で今日ずっと関わってきた、そしてまた工業団地の立場としてやってきた者として、最近、我々中小企業の事業者としては、企業誘致の、ここで活躍している事業者が育っていくことのほうが大事ではないかというような考えを基本的には持って活動してまいりました。でも、やはり活性化するためには、新たに他地域からこの地域に来て、またしっかりと根を生やしてやっていけるような事業者さんに来ていただくということを、そしてまたそれを受け入れていくということが大変重要なことであるというふうに思っております。そしてまた、この人口6万数千、面積も35平方キロでしょうか、そういう意味ではいろいろなところへ行ってみると、白井町だった時代が長いので、我が町で、狭いのだけれども、いろいろな事業者が来て、個性豊かにいろいろやっているなど。

ただ、もう少し税収を、隣の印西に比べると、人口当たりの税収をもう少し上げていったらいいのではないかなというような思いは持っております。

そういう意味では、土地を有効に、有効にといって、しっかりと農業をやっておられる方は、しっかりやっていただくわけですが、あまりそこまで手が回らないような地域であれば、もっと違う形の活用ができるということがあるわけで、そういうところを今進めていこうとしていろいろやっている。

また、まちづくり協議会に関しましては、いろいろなまちづくり協議会が多く、これも私も関わってやって、方向性としては重要なことであるのですが、産業廃棄物事業者との闘いの中で、全事業所に賛同いただいてつくった経緯があります。そういう意味では、これからの地区まちづくり協議会というのは必要だというふうに思っております。

これから、産業振興ネットワーク会議でも、今まで農、商、工だったのですが、観光をもう少し考えていこうではないかということで、ここ数年、話をしております。

そういう意味では、この35平方キロというコンパクトな市の中で、多彩な土地の有効活用をしながら、また、私たちが生活できるようなことを一緒に考えていく、そしてまた方向づけるという、非常に重要なこの会議だなというのを委員の方のことを聞きながら考えてまいりました。自分自身がどうだと言うと、もっと若い世代の声をどんどん入れていくようなことであっていいんだろうなというふうに思いました。感じたことについては、こういう場でいろいろ意見をまた伺っていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

以上です。

#### 【会長】

ありがとうございました。

それでは、時間が来ましたので、勉強会ということについてはこのあたりということで。戦略1－2は終わらせていただきます。

### ○戦略3-3 拠点を結ぶまちづくり

#### 【会長】

それでは、戦略3-3について委員の皆さんのほうから質問等をお願いできればと思います。

#### 【委員】

参考資料24ページの幹線道路沿道活性化事業の(A)拠点開発誘導型、(B)沿道開発誘導型、(D)IC周辺開発誘導型のエリアは、それぞれどのような用途のタイプでしょうか。

#### 【都市計画課長】

A、Bでの順番で行きますと、Aについては、県道千葉ニュータウン北環状線の沿道になるのですが、こちらにつきましては、用途的には、物流ですとか流通業務ですとか、例で申し上げますと、レクリエーション施設ですとか、商業施設ですとか、観光施設、これらに類するようなものというふうに考えております。実際に商業施設などが既に建てられた例がございます。

それからB、沿道開発誘導型につきましては、こちら国道16号になるのですが、こちらにつきましては、例としましては流通業務施設ですとか、工業地域内にできる工場ですとか、倉庫のようなものを考えております。

それからDのインターチェンジ周辺開発誘導型のところなのですが、こちら国道464号、北千葉道路のインターチェンジが設置される予定の半径1キロと半径2キロの円の範囲内になるのですが、こちらにつきましては、製造業ですとか、物流施設ですとか、その他、集客施設、業務施設、医療施設、福祉施設などを考えているところです。

以上となります。

#### 【産業振興課長】

続きまして、4ページのほうに、午前中にお話しした誘致の候補地があるかと思うのですけれども、見てもらうと分かる通り、今、都市計画課長が説明したところが市街化調整区域の地区計画の運用指針という、調整区域であっても、地区計画を定めればできますよという区域です。当然この円が、タイプがあるところは、タイプに基づいた企業誘致を進めていきます。

4ページの候補地を見てもらうと、タイプがないところもありますので、タイプがないところについては、その辺は都市計画課と連携をしながら進めていくと。タイプがあるところはタイプどおりの事業所を誘致すると、今そういう立てつけになっています。

以上です。

#### 【委員】

分かりました。とにかくタイプが、例えば大規模施設園芸とか六次産業化施設などは、こちらの開発誘導のほうに回答はないのですが、そういう場合は、特にどこの地区と限らず

に、先ほどの基本方針の丸のついたところから探してくる、そういう理解ですか。

**【産業振興課長】**

基本的には、そういう理解でよろしいかと思います。午前中のお話にもあったとおり、市街化調整区域、言葉は悪いですけども、農地を潰して企業誘致を進めていきますので、企業誘致を進めていく中でも、農業に貢献する施設を誘致していけるような、そういう施設も、この類型にないようなところには設けていく。そういうような形で、農地は減らすのだけれども農業振興につながるような、そういう企業誘致が進められればと思っております。

以上です。

**【委員】**

その辺の誘導タイプと産業みたいなものを地区まちづくり協議会がかなり根回しということなのか、協議をして、その可能性の手続を踏んでいってやるということなのですけども。なかなか地区のほうも、どういう開発をどういうふうにといい具体的に明記がないと、意思決定のしようがないと思うのです。そこら辺のプロポーザルというのか、サウンディングに入るのか分かりませんが、その辺の手続のイメージを、地区まちづくり協議会の方々が分かりやすく、理解するようなステップをどこかに混ぜるのです。相当現実化しないと、その形が見えるような状況にはなっていないのです。

**【産業振興課長】**

おっしゃるとおり、地区内では、農家を実は続けたいのだという方も。特に、事例を出しますと、A地区、市役所の南側ですが、これは法目上長殿地区というのですけれども、この中では、実際に後継ぎもいるので農家は続けていきたいのですという人もいます。この計画の区域内で続けていきたいという人もいれば、別に代替地をつくってくれという人もいます。

そういう場合でも、本当に企業誘致って可能なのかどうかって、実はマーケットサウンディングという可能性調査の、サウンディング調査、民間相手にやっています。ここで7社ほど案を出していただいた民間事業者がいるのですが、それを基に、こういう可能性があるのだよということで地権者に説明して、それで今のところは進めていっています。そういう不安がある地区については、マーケットサウンディング、可能性調査を入れ込みながら、それで進めていく。そういうのも一つ。基本方針の中には、マーケットサウンディングというのはいれていないのですけれども、アンケート調査も入れていますし、マーケットサウンディングというのを入れながら進めているというような、今では状況です。

**【委員】**

そうすると、しつこいようだけれども、先ほどの農業を継続したいとか、農業生産系の六次産業とか、施設を誘致したいというようなことがあれば、またそれはそれに応じて、

いろいろなサウンディングをしていただけたらとか、そういう手続は可能なのでしょうか。住民合意の中で、農業系の施設だったらやりたいみたいな、出てきた場合に。

**【産業振興課長】**

それも可能です。全面積でその施設を入れるかどうか、それとも一部で入れるかどうかは、やり方はいろいろあると思うのですが、そういう基本があるようでしたら、官民連携でやっている、市が主導で開発をやっているわけではなくて、官民連携でやって、そういう条件設定の下、サウンディングをかける。そして、民間事業者が手を挙げるかどうかは、それを見てみるというのも一つの手法です。

それとあと、一つ漏れましたけれども、基本方針の中では、事業検討パートナーというのを入れる。事業検討パートナーというのは、地権者に寄り添って、地権者の意見をまとめて一つの形にしていくようなパーツを民間にやってもらっているのですが、その辺は、市のマンパワー不足を補うために事業検討パートナーというのを入れて、それで進めていっていますので、地区によって状況が違いますので、いろいろなメニューを取り込んでいって、それで地権者の意見を一つにまとめていっている。そのようなやり方で、今、誘致を進めているところです。

**【委員】**

分かりました。相当手厚くやっつけらっしゃるといえるのは理解できました。

**【会長】**

ほかにはいかがでしょうか。

委員もこの辺、同様の質問をされていますけれども、いかがでしょうか。

**【委員】**

午前中とちょっとダブるかもしれませんが、構想道路の件で、道路課と産業振興課で企業誘致を検討していると思いますが、構想道路を全体で整備するのは結構難しいです。地区割といいますか、企業誘致計画は、先ほど説明のあった地区とか、EとかGとかFとかHとかあるのですが、この事業計画は、進捗の状況をどのように考えているか。これは、5年10年で終わらなくなるのではないかと思います。全体の中で、例えば木下街道までを一期工事として進めるとか、それで企業誘致をまた別の角度から進めていくとか、その辺の検討はいかがでしょうか。

**【産業振興課長】**

構想道路の話なのですが、企業誘致に絡めてということなので、私からお答えをさせていただきます。E地区については、もう既に、E地区全体ではないのですが、E地区の一部は地区まちづくり協議会ができていまして、実際には結構進んでいます。この進んでいる地域につきまして、E地区全体に波及させようというような、今のところは計画しています。

それで構想道路をタッチさせるような形ですね。これはまだ産業振興課内、特に企業誘致推進室と話し合っただけで検討している段階なのですけれども、午前中もありましたインセンティブですか、税金の半額を返すみたいなインセンティブがありましたけれども、それに代わるものとして、やはり調整区域ですのでインフラが弱いというのはありますので、インフラに対しての補助金みたいなものを今のところ検討している状況です。それともって構想道路をつくっていけないかというような考えを今のところ持っています。これは事務事業評価のほうにも乗っかっていますので、一応お知らせしておこうかなと思っています。

市が道路をつくるとなると、やはり予算の制約があるので、単年度予算という形で作っていかねばならないので、非常に、それこそ工業団地までタッチするのも結構かかるのかなと思うのですけれども、企業誘致に絡めて進めていくとなると、ある程度短縮ができるのかなという考えではあります。G、F、Hについては、まだ都市ガスの種類がないのですけれども、その辺は連携して進めていければなと思っています。

企業誘致なのですけれども、先ほど午前中のほうでもお話があったかと思うのですけれども、何十年と需要があるかどうかです。これは見込みませんので、もう少し早いスケジュールでやっていかないと、需要がなくなったら候補地をいくらつくっても意味がないので、それを進めるためにも、インフラへの補助金みたいなものが必要ではないかと産業振興課内では一応検討しているところです。

副会長も工業団地ですけれども、白井工業団地って非常にインフラがあまり強くないところなのです。結構、今も大型自動車が入っていかないと、なかなか業務のほうも回らないような状況なのです。ですので、この構想道路って、取りあえず工業団地までタッチさせるというのは、非常に大事な取組なのではないかと産業振興課レベルでは考えているところです。もう少し早く構想道路が進められるような取組というか、やり方を考えていきたいと思っています。

以上です。

#### 【委員】

今、産業振興課のほうからそのような意見があったのですけれども、産業振興課と、あと道路課とか都市計画課も関連して来るとは思いますが、実際に都市計画の担当部署も、インフラ整備はなかなか難しいのでしょうけれども、当該区域として、工業地域の白井工業団地となり、そのイメージを改善していくには道路が一番必要だと思います。道路整備はインフラとして、どのようなスケジュールを、考えているか伺います。

#### 【道路課長】

委員から、道路の工業団地等の計画とか、分からないのでということでしたので、まず工業団地への道路のアクセスって大変重要だというふうに私も考えておりました、今、道路課のほうで、この3の事業ではないのですが、工業団地アクセス道路整備事業というの



を進めておりました、まずは、その事業のほうの進捗を図っていくというところで考えているところです。

あと、構想道路につきましても、計画はされて事業化が進んでいけば、当然、工業団地への利便性などもというふうには考えておりますが、今のところは、まずはアクセス道路の整備事業を進めているところになります。工区分けとかも考えたほうがいいのではないかとということも、委員のおっしゃるとおりでございますので、実際、計画を進めていく中においては、工区分けなども考えていく必要があるかなというふうには考えているところです。

以上になります。

#### 【会長】

よろしいでしょうか。関連して御意見いかがでしょうか。

#### 【委員】

今、都市計画の責任のある方から、アクセス道路を優先して、もちろんずっと優先してやっていただいているのですけれども、これが終わらないと、次の構想道路にいかないというように受け取れるのですが、これは、いつアクセス道路が開通するのかということをやっと延び延び、いろいろ問題点が出てきたということは理解しているのですけれども、この辺のところは数年延びてきているわけで、やはり構想道路を生活道路にし、実利が得られるような形の計画にぜひ進めていってほしいなと思うので、それをどういうふうにお考えなのかを聞かせていただきたいなと思います。

#### 【道路課長】

道路課では、先ほど言いましたように構想道路があるのですけれども、まず白井工業団地アクセス道路整備事業ということで、確かに実施計画は今年度完了で、来年度から供用開始になっているのですけれども、いろいろ問題、これは国の交付金を活用しながら進めているのと、あとは用地のほう、おおむね、ほぼ取得しているのですけれども、ある一部の区間でなかなか用地が取得困難なところがあります。なので、そういうところは、やはり工業団地の大型車両の通行と、活性化に向けて取り組まなければいけないということで、一部の区間について、計画の線形とは違って、そこをちょっと迂回させるような形で、事業の道路の線形の見直しを図って、なるべく供用開始ができるような形で進めているところなのですけれども。事業計画については、修正設計という、先ほどの用地が買えないところ、成果を踏まえて、今後のスケジュールについては、今ある程度固まりつつあるのですけれども、9月の議会の中では、その辺を議員さんのほうにもお知らせしていく考えています。併せて、事業費の件も、その頃には報告をさせていただく。もちろん工業団地協議会の中でも、前回、出席していただいて、事業の進捗状況とか御説明させていただいたのですけれども、同じく協議会のほうにも、今後のスケジュール等、事業費等を踏まえ

て、その頃に御報告したいと考えております。

【委員】

どうもありがとうございました。というのは、9月時点で、いつぐらいになるかというのは出るようだ。前予算も含めてということは、まだまだ何とも言いようがないのですが、分かりました。一刻も早く、これを進めてほしいのと同時に、遅れておりますので、構想道路に関しましても、これを終わらないと取りかかれたいということではなく、この構想道路をこのアクセス道路が通っていく中で、並行してでも進めていただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

【会長】

関連して、いかがでしょうか。

【委員】

この資料をお配りいただいたことで、私も最初、23ページにある構想道路の図だけだと、鮮魚街道も既存道としてあるし、そこまで住宅、人口が密集しているわけではないし、工業団地へのアクセス道路の計画もあるので、なぜここに構想道路が敷かれていて、何よりこれが、構想道路が一丁目一番地みたいな感じなのかなとも思っていたのですが、この4ページの図を見させていただくと、このE地区、G地区、F地区、H地区、そして工業団地へ行ったら、非常に戦略性の高い、まさに道路ネットワークを生かして沿道への企業進出を誘導するという戦略3-3の取組のところまさに合致する道路だったのだなということが非常に頭の中につながって、よくよく理解できたのですけれども。

その進捗感も非常によくよく理解できましたし、さらにとっても具体的な例で、A地区の進捗例を出していただきましたけれども、まさに地権者の方々の要望やニーズに対して、非常に市のほうもコーディネーターとしての役割をサウンディング事業という形で、事業者さんとの間でやられているのだなというふうな、その進捗感もすごく伝わってきました。

その一方で、取組オプションの中に、都市拠点と各地域の拠点をネットワーク化し、まち全体の拠点間を移動しやすいまちづくりを進めますというふうにありますので、実際、そうしてみると、この23ページの図にも、木十線一線が、先ほど午前中のお話でも、いろいろある中で、どこに力を入れるのだといわれたら、ここだというものもすごくよく分かるのですけれども、その一方で、沿線で西白井駅周辺エリアと富士地区のほうにも点線が引かれていまして、地元の方は分かると思うのですけれども、風間街道は基本的に渋滞していますし、その裏側の第三小学校区のほうでは、次々と農地がスプロール開発される形で宅地化されてというので、清水小の2.5倍ぐらい第三小の子供たちいると思うのですけれども、はるかに歩道整備が追いついていないような感じで。ただ、よく見ると、ちょこちょこ将来を見越して、道路用地みたいなものを確保しているのかなというのは目に入ってくるのですよね。この辺の進捗感というものを我々もこの審議会でも評価するに当たって、

木十余一線以下、戦略道路以外の、例えばこの富士地区のあたりに引いてある点線の道路とかの進捗状況、取組状況はどうかかなということや。

あとは、L、M地区あたりから西側のほうって、464を北環状線がバイパスしているので、非常にネットワークとしては強固かなと思うのですけれども、その一方で、西白井駅周辺からこの北環状線にかけては、464一本で、それ以外は、細いくねくねとした市道しかないですし、あとベリーフィールドのほうの地区には、464から16号に抜ける、これも非常に整備された都市計画道路がある一方で、ここから風間街道へ、そして西白井停車場線へと渡る道路は、これも23ページで点線が引かれていると思うのですけれども、ここをベリーフィールドの北側地区は七次台小学校区なのに、七次台小学校に通うためのちゃんとした通学路はないと。本当に、向こうから車来たらどうしようみたいな道路を、これもまた清水口小学校の1.5倍ぐらいの児童数が七次台小学校に通学していたりもしますので。その辺、私もPTA連絡協議会なので、これも繰り返し、通学路改善要望等で、市P連から市のほうに上げている部分ではあるのですけれども、ぜひこうした場でも、そこへの取組状況や捉え方、受け止め方をお聞かせいただければと思います。

#### 【会長】

今の御質問について、お願いいたします。

#### 【道路課長】

まず富士地区の取組状況ということで、こちらの白井第三小学校の通学路であります。市道番号が12-002号線、こちらは富士地区と西白井駅を結ぶ道路になっておりまして、こちらは路線的には、関東一高の十字路から駅のほうへ向かって調整地のあるところまで、延長的には950メートルございます。

計画期間は、たしか平成25年から令和9年まで、15年間設けているのですけれども、随時、用地が買えたところは、部分的に片側歩道、全幅で9.2メートルの整備を行っているところなのですけれども、なかなか用地の関係で、うまく事業計画どおりには進捗しないところがございますが。

ただ、そうはいっても、児童の安全安心のために歩道整備は必要となりますので、市の方針としては、国の補助金を使って活用しているところなのですけれども、優先順位的には、工業団地のアクセス道路に次いで通学路整備ということで、非常に重要な事業でございますので、市の財政さん、市長さんはじめ、お話しして、何とかこれは必要な路線だということで、補助割れしても、何とか年度の事業の内容を整理していくような形で進めているところがございます。手持ちで進捗率的なものはないのですけれども、随時行っている。今年度も、昨年度の用地の補償とか、用地買収を終えたところの場所、こちらの工事延長でいうと25メートルぐらいあるのですけれども、そこを補助金を活用しながら整備を実施していきます。

それとあと、西白井から風間街道へ抜ける道路については、非常に問題としては用地の取得が困難で、本当に生徒の皆さんには、なかなかそこを、まだ一部は舗装はされていないのですけれども、歩道があって砂利のところを歩いて真っすぐ行けるのですけれども、用地の関係で取得がなかなか、今の相続の関係とかあるのですけれども、迂回するような形になっています。こちらについては、土地の所有者の動向を踏まえながら、用地取得に向けて、取得されれば、事業着手に向けて取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

#### 【委員】

ありがとうございました。今の報告、お話をお聞かせいただく中で、構想道路だから、あくまで全然まだタイムスケジュール的な感じで進んでいるものではないのかなと、私も住民として思っていたのですけれども、一応は令和9年という感じで事業をされているということが分かりましたので。全国津々浦々、いかなる道路においても、国の道路から市道、町道、村道に至るまで、令和何年度といっても、また延びたねということは諸事情いろいろあることですので、それは住民も理解できるころだと思しますので、取りあえずは、今のところは、令和何年度に向けて事業をスケジュール管理しているということは、もう少し住んでいる人にもオープンに見えるほうが、市の取組が伝わりやすいのかなと思しましたのと。

もう一つ、道路計画全体を捉えるために、せっかくの勉強会の場合ですので、そこをひいていただきたいのですけれども。先ほどの西白井から風間街道へ至る道路とかも、ある程度、途中まで一部区間を舗装も終わっているほどにつくっているのに、ここから先が買収できていないと。こういうふうなところは、この件に限らず、全国津々浦々、幾らでも聞く話なのですけれども。そもそも何で工事を始める前に、ほぼほぼ地権者の方が、一応はそういう計画に反対していないよ、賛同しているよということを取りつける前に、つくるところはつくってしまって、ここの人、絶対反対だって、絶対通せないよということになってしまうのかなということが、住民目線だと、これは市の横の道に限らず、全国あらゆるところでこういう話が出ていると思うのですけれども。道路計画の立て方や着手の順序として、なぜこういうことが起きるのかな、市民目線としてはということぜひ勉強会ですので、皆さんで共有したいなと思うのですが、いかがでしょうか。

#### 【道路課長】

先ほど私、2か所の路線の説明をしたのですけれども、構想道路ではなくて、これはあくまでも計画道路でございます。路線的には、富士と根地先にある路線なのですけれども、計画道路、補助幹線道路となっておりますので、その辺、取り違えないようお願いいたします。

また、先ほどお話のございましたところで、西白井の地区から風間街道に抜けるところ

ということで、確かに途中までは道路の拡幅がされておりまして、一つの地域のところで止まってしまっていると。こちらにつきまして、まず道路の計画というところになりますと、まず市のほうで、ここの部分、道路のほうの計画を立てたいといったときには、地主さんも皆さん、地域の方々を集めさせていただきまして、地元の説明会をさせていただきます。そのときに、地権者さんのほうにもお声をかけさせていただきまして、地権者さんも、そこでなかなか反対ということもなく、やはり皆さん、こちらのところが出来上がると、子供たちも通りやすいのでとか、ここから学校まで通る道ができると、とても素晴らしいねということで、おおむね賛成はしていただくのですけれども、個別の補償という形になりますと、そちらの部分の家庭内のお話とかというものが、どうしてもそこで絡んできてしまいますので、今回の部分につきましては、先ほど課長のほうからも一声ありましたけれども、相続というものが発生してしまっておりますので、その件につきましてお時間がかかっている、なかなか地主さんの御了解が得られず、今、計画的にストップさせていただいているような状況になっています。

以上です。

**【委員】**

そういった説明というのは非常に納得できましたし、勉強になりました。ありがとうございます。

**【会長】**

ほかにはいかがでしょうか。

質問としては、構想道路、計画道路等々、道路関係のほうもそうですけれども、それ以外にも道路ネットワーク、公共交通ネットワークといったようなことも今回の対象にはなっておりますので、それらについても、併せて御質問等いただければと思います。

**【委員】**

資料で25ページですが、市道の維持修繕事業というところですが、ほとんど既設の道路なので、逐次、効率的・効果的な修繕を計画的に、また、優先順位とかで、改修等されていると思いますが、地域の高齢化や、バスネットワークの空白地帯など、いろいろな要素が組み合わさって、効果的・効率的に実施されているのでしょうか。併せて、市民にこのような理由でこういうところがこういうように修理されているのですみたいなことは。テレビで盛んに放映されたなか、秋田で冠水しているような場所がありましたが、そういう箇所は当市にはあまりなくて、安心ですよとか、市民への情報伝達はどうなっているのでしょうか。

**【会長】**

御回答お願いいたします。

**【道路課長】**

資料の25ページ、こちら修繕前後のイメージということで、場所は農免道、市道00 - 137号線で、令和4年度に舗装修繕したところでございます。効率的・効果的な修繕を計画的に実施ということで、道路課では、幹線道路の道路修繕工事につきましては、令和3年度から7年度までの5か年なのですけれども、計画期間としまして、修繕計画に基づきまして、舗装のAからEまでであるのですけれども、健全度ランクといたしまして、Dランクで損傷がある程度進んだところ、健全度ランクEということで、損傷が著しい状態のところを5年間の中で事業の平準化をして、効率的・効果的に進めているところでございます。

あとは、市民からの問合せなどで、道路が振動するとか、ひびが入っているとか、そういうところを現地調査した上で、計画以外のところについても、状況を見て、補助でなくても、単独事業で実施しているところも多々あります。

市民への対応については、もちろん市民からの要望等ございまして、現地を見て、必要があれば進めているところでございます。

#### 【会長】

ほかに質問ありましたらどうぞ。

#### 【委員】

質疑で、事前質問で1番と2番というところで挙げさせていただいて、今回、1番に関しては御回答を頂いて、当初、こちらの施策評価シートの中で、公共交通による人口カバー率というふうにあって、実際、数字を見るとすごく高いのだなというところで、どのように何をカバーするのかなというのが率直にあって事前質問をさせていただいたのですけれども。頂いた評価シートから見ると、白井の公共交通機関はすごくカバー率がよくて、運行されているのかなと純粹に思ってしまって。でも実際、生活をしている市民からいうと、決してそうではないなというのが率直的に頭に浮かんでしまっていて、事前質問をさせていただいたのです。

それとあと、2番に挙げています、今コミュニティバスも実際に運行もされていますが、基本、1日に数本というところで、その辺の運行も、市民目線で考えるたびに、市民の思う拠点って何だろうというところで。今、大きい話題で、誘致がどうというところでの拠点のお話なのでしょうけれども、市民からしてみると、生活圏域の中でどこを拠点にして動くのかというのは、すごく大切なところで。そこを駅なのか、スーパーなのかというところで、このコミュニティバスの運行状況も、今、多分幅広い圏域の中で網羅をしようという形での運行をされているかと思うのですけれども、もう少し、そこを絞り込んでもいいのかなというのがあって、多い年齢層はどうかのですかという問いをさせていただいたのですね。やはり高齢者の割合が多いという数字も出ているのだったら、逆にそこに着目して、運行状況を変えていく、あとは、コースを変えるという臨機応変さというか、そういうのは欲しいかなと。日中見ていると、空車で走っている形跡もありますし、そこには

人件費なり、経費も出ているのだと思うので、もう少し、ちょっと難しいのかもしれませんが、時間帯なり、効率のいい、柔軟に運用できる、そういうのを考えていただいてもいいのかなと思ったのです。

二次評価のところにも、バスロケーションの購入を決定したら、長期的な観点から人口減少、高齢化が進むという形で書いてあって、検討ですね、検討が必要ですというふうに書いているのであれば、やはりそこに向けての取組が必要だったのかなということで、高齢者と子育て世代、子供を育てている世代に優しいシステムであれば、ふだん生活している方にも優しいものにはなるのかなというところで、また逆にそこが人口を呼ぶきっかけとかにつながるというのかなということで。私は市民の生活目線で、その辺は市の方に頑張ってもらいたいなというところで。

以上です。

**【会長】**

今の点について、回答お願いいたします。

**【都市計画課長】**

都市計画課です。御意見ありがとうございます。

市の交通の現状としましては、北総鉄道と路線バス、それからタクシー、お話があったコミュニティバス、ナッシー号で、それぞれ役割分担を担っていくというところで、持続可能な公共交通というのを目指しているところになります。御意見頂きましたように、ダイヤとかルートとか、いろいろ御意見、ほかからも頂いたりもすることも確かにございます。

今、現状としましては、ナッシー号、4台ございまして、その4台がフル稼働して市内を回っているというか、路線バスとのすみ分けの中、運行しているような状況にはなっておりません。頂いた御意見、時間帯とかルートとか、もっと工夫の余地もあるのではないかとか、いろいろ御意見を頂いたところではあるのですが、現在のルートとダイヤとしましては、令和3年8月にダイヤ改正のほうを行っております、今は2年目ぐらいになっております。現状、役割分担の下というところもございまして、路線バスと競合するような路線については、ナッシー号が同じ路線を走ってしまうと、どうしても路線バスのお客さんを奪ってしまうようなところもございまして、路線バスの維持というの、市民のためには大事とか、そういったところも踏まえて、地域公共交通活性化協議会という協議会があるのですが、そういったところでも議論した上で、令和3年8月のルート、ダイヤ改正を行ったところではあります、今、頂いたような御意見も大変貴重な御意見だと思いますので、今後の検討の参考にさせていただければというふうに思います。ありがとうございます。

**【委員】**

ありがとうございます。また、共同運行みたいなものも、今後取り入れるのでしょうか。民間のバス業者さんと、ナッシー号って、そもそも市で独自にやっているものではなくて、どこか民間に。

**【都市計画課長】**

ナッシー号の運行につきましては、市のほうが運行をしております、民間のバス会社に委託をして市が行っているというところになります。

以上です。

**【会長】**

公共交通のカバー率の出し方というのは、どうもよく分からないということだったと思うのですが、一定の公式みたいなものがあるのですか。

**【都市計画課長】**

カバー率の考え方なのですが、市全体の人口分布があるかと思うのですが、駅から半径500メートルの円の中に入っている人口、あと、バスの停留所から300メートルの円の範囲に入っている方々の人口、今申し上げた半径500メートル、半径300メートル内の中に入っている方の人口を市全体の人口で割り返すというような形になります。そこから外れてしまった方が、残りの4パーセントぐらいというような考え方となっております。

以上です。

**【会長】**

これも課題として、公共交通としてカバーできている部分、もちろんできていない部分もあるわけですが、拠点をつなぐということですから、どういう拠点とどういう拠点をつなぐのかという考え方ですよね。駅とか、基本的には拠点施設ということもそうでしょうけれども、まちづくりの在り方によっては、もっと多極分散的なまちづくりをやっていて、もっと小さなミニ拠点を緩やかにつないでいくなんていうふうに行っているところもあつたりしますので、その辺、どういうふうにつないでいくのかという考え方というのは、何か明確なものというのはありますか。

**【都市計画課長】**

お答えいたします。現状のルートの考え方としましては、交通結節点、駅なのですが、駅などを中心にダイヤを組んだような考え方となっております。現状はそうっております。

**【会長】**

また後ほどのグループワークのほうでも、いろいろ御意見、提案等も頂ければと思いますけれども。どういうふうにかバーしていくのかとか、公共交通だけではなくて、それこそオンデマンド的なものとか、いろいろな工夫をしているところが多々あります。これも、例えば買い物難民など、白井ではそう多くはないのかもしれませんが、現実に



そういった問題もあったときに、どういう移動手段が確保されていることが望ましいのか、これは当該地域によって、全然違うというふうに言われているのです。オンデマンドタクシー的なもので、うまくいっているところと、全然そんなものは誰も使わないというところがあったりするので、これは、例えば買い物だったら、買い物スタイルのような在り方と、公共交通とかという橋渡しの取組というのは、かなり密接、不可分のところもありますので、どういう形を、どういうところにどういうふうを導入していくのが望ましいのかというあたりも含めて問われているということ、課題として共有しておきたいなというふうに思います。

ほかにはいかがでしょうか。

#### 【委員】

私はほとんど移動手段が車になるのですけれども、仕事に行くときとか、また帰ってくるときに、大きい国道、16号とか464とかを横断するときにごく渋滞をしていて、本当に渡れないときとかは、20分とかそれくらい待つこともありまして、これからまた道路を新しくつくっていくとなったときに、そういった渋滞のことに関しても、考えていらっしゃるのかなというのがちょっと疑問なのですが。

#### 【会長】

今の御質問、お願いいたします。

#### 【都市計画課長】

今、国道16号とかを横断するとき、すごく時間帯によっては混みますねというところで、最初の頃にお話がありましたけれども、例えば構想道路を整備していくとなった場合ですと、具体の事業化されて、設計とかというのはまだ先にはなりますが、設計に当たっては、当然、渋滞解消のことも考えていかないといけないでしょうし、あと、構想道路が仮にできたとすれば、それによって交通も分散しますので、そういった渋滞緩和の効果なども期待できるかなというふうには考えているところです。

以上です。

#### 【委員】

企業誘致の話に戻ってしまうのですけれども、企業誘致、先ほどいつまでも企業誘致と言っていられないという課長のお話もありましたが、スピード感の共有、大体いつ頃を目指して、成田空港の機能拡張みたいなのは、5年後全て、そこまで目標を頑張るのだぞということなのか、もう少し、企業誘致、機能拡張後も続けていろいろ頑張るのだぞとか、国や県もいろいろな活動とか調整もあるのでしょうか、庁内で、また市民も含めて、どのくらいのゴールに、どこまでどうするか。各地の協議会のスピードの状況もあるのだと思いますけれども、そうもいってられないではないですか。そこら辺の緊張感というか、スピード感というか、どうやって共有して、どんな状況なのかというのがあれば、ぜ

ひ教えてください。

**【産業振興課長】**

いつまでにとか、そういう目標が、全庁的にオーソライズされておられませんので、なかなか答えにくいのですけれども、個人の意見として聞いてもらえればと思います。

産業振興課がやるのは事業化までの話になるのですけれども、まずこの先、需要がどうなるかはまだ分からないですけれども、今現時点だとスケジュール的には、次期計画の前期5か年ぐらいまでに事業化まで行っていないと、難しいのかなという感覚です。個人的感覚はあります。ですので、そこまでなるべく地権者の中に入って行って、地権者の意見を吸い上げて、方向性をまとめていく。そして事業化までもっていくと。そういうのが、あくまでも個人的意見です。全庁的にオーソライズされていませんので。例えば全庁的にオーソライズされた企業誘致で、税収幾らまでにするとか、そういうのがあるのだったら、それに向けてやりますけれども、全然今は、全庁的にオーソライズされた目標というのはありませんので、個人的感覚で言いますと、次期計画の5か年までに事業化まで行っていないところは可能性がないのではないかと考えます。

以上です。

**【委員】**

そのときに、さっきの成田空港の機能拡張みたいな外的要因に影響される部分って非常に大きいと思うのですけれども。成田の助長がある、財政の状況もある、あと人口増加もあると思うのだけれども、やっぱり分かりやすい外的状況によって、周辺もどんどん企業誘致が進んでいくではないですか。ある一定のラインで、成田空港の機能拡張が進む、周辺に張りつくべきところには、もう張りついたというところで、ある程度見極めておくという、外的要因を見極めるという必要はあるのではないのでしょうか。そこら辺はどうですか。

**【産業振興課長】**

そのとおりで、成田空港は、最初はトップで進めていたのです。地域未来投資促進法で物流拠点にするという話になっています。

ただ、物流って1か所だけ集まっても、その中間地点の拠点も必要になってきますので、そこに大きな物流拠点ができたからといって、需要がなくなるとは考えていないのですけれども、ただ、そこに引っ張られるので、よそに作ろうと思っていたところが、そっちへ行ってしまうということは多々ありますので、需要がそちらに引っ張られるのは、確かにあると思うのです。それを含めて、次期計画、5か年計画ぐらいで事業化まで行っていないと厳しいのかなという、個人的感覚になります。という思いはあります。

以上です。

**【会長】**

ほかにはいかがでしょうか。

私は道路関係のことはあまり詳しくないのですが、今、委員がおっしゃったような、先を見通したトータルなコンセプトというのは、ないまま進むものなのですか。というのは、つまり、こういう道路が通ると、こういうことが可能になって、こういう成果を見込めて、税収も期待できて、こういう次期の活性化も見込めてというふうなものというのは、ある程度トータルなビジョンとして描いて、マックス行ったときにはこれくらいの期待ができる。でも、そうではない不確定要因もあるから、そうではない可能性もあり得るというのは、何パターンかシミュレーションしながら進めていくものなのかなというふうに、素人ながらにはイメージしているのですが、課長、そうではないのですか。物事の進め方として。全庁的にオーソライズされているものがないから、部長さんに聞いたほうがいいのかどうか分かりませんが。その辺の考え方というか進め方について、いかがでしょうか。道路だけでももちろん整備計画というものもあるでしょうけれども、先ほどから出ているように、道路の話だけではなくて、企業誘致から経済効果、多分いろいろなものをはじき出した上でという、なかなかそういうトータルな絵というものは描けないものなのかも知れないも含めて、勉強会なので、ぜひ教えていただければと思います。

**【企画政策課長】**

総合計画の目標みたいな形ですか。

**【関谷会長】**

そうですね。

**【企画政策課長】**

企画政策課のほうから話をさせていただきます。現状を申し上げますと、具体的な絵というものは、ないというのが今の現状だと私は認識しています。

ただ、午前中の話もそうですけれども、一つ一つが独立していたら何も先に進まないというのが間違いない話なので、それぞれ目指すものを見据えて、いかに独立してきたものをどう連携させていくのかというのが非常に大きな問題だと思いますので、今の現計画が7年度、今、皆さんに評価していただいている事業というのが7年度までになりますので、先ほど課長がおっしゃるとおり、次の5年の中で、仮に企業誘致なりの話をまとめていく必要があるとするならば、私も個人的な話からすると、それぐらいのスピード感でないといけないと思うのです。成田の機能拡張は、たしか令和11年供用開始だと認識しているのですが、それまでにどれだけスピード感を持って対応できるかというのが、とても大事だとは思っています。それをいかに次の計画の中で絵を描けるのかというのは、企業誘致の面から考えても、それから人口なり、地域活性化なりを含めても大事なものであろうとは認識していますけれども、現状、何か約束できるようなものはないというのが現状です。

以上です。

#### 【会長】

不確定要因が多いので、これで行くという、これは市役所の皆さんもお約束するなんていうことは、これはとてもじゃないけど言えるものではないということ、多分皆さんもお分かりだと思うのですけれども、絵がないと戦略って立てられないのではないかなと思うのですけれども。総合計画を読んでいても、その戦略性は全く見えてこないのですよね。その辺、今の計画というよりも、今後の計画の立て方、運用の在り方として、どんなふうを考えればいいのかというのは、別にここで答えを出せるものではもちろんないと思いますけれども、そういう視点も問われているのではないかと、ちょっと申し上げておきたいと思います。

そろそろ時間ではあるのですけれども、この勉強会として、ぜひ聞いておきたいということがあればお願いいたします。

#### 【委員】

まちづくりを活性化させるには、鉄道というのは大事だと思っていて。北総鉄道で、ほかの市と組んで協議会を発生させているのですけれども、その中で、ラッピングトレインというのを去年、最近までやっていて、実際、僕も通勤で北総線を使っているんで、ラッピングトレインに乗って、本当に有効なPRの方法かなと思っているのですけれども。実際、このラッピングトレインとかいろいろな活動をした中で、市に大きな反響とかあったのか。あと、今後、北総線は最近、運賃が値下がりしたのですけれども、実際問題は、通学定期が大幅に安くなっただけで、あとはまだまだ割高感もあるのですけれども。その中で、午前中の協議があったのですけれども、通勤の足、鉄道というのも大事だと思うのですけれども、今後、さらなる運賃の値下げとか、あと電車の本数とか、なかなか特急も停まらない中、そういう協議の予定があるのかどうか、お聞きしたいです。

#### 【企画政策課長】

運賃値下げ等の話がありましたので、私のほうからお話しさせていただきます。委員おっしゃるとおり、通学定期については、大幅な値下げというのはできています。一般の運賃にしても、これまでよりは安く値下げしているというのは現状としてあります。これでもいいのかという話になると、なかなか、いいとは言えないというのですか、はっきり発言するのは難しいところなので、事情を酌んでいただければと思いますけれども。もう少し、いわゆる通常の鉄道並みに落としていただければ、誰もが望むところだと思います。

ただ一方で、北総鉄道のほうにも経営の問題というのがございますので、今、値下げしたからといって、またすぐにもっと下げてくれというのは、やはり厳しいものだというふうには思っています。

ただ、長期的な視点というのと、またあれですけれども、当然、運賃値下げについては、

市としても、北総鉄道に対して、直接的なのか、間接的な表現になるのか分かりませんが、これからも続けていくものと思っております。

それに併せて、ただ値下げしようということではなくて、それこそ利用者が増えるような取組として、都市計画課でやっている活性化という問題が併せて出てくるものだと思いますので、駅前の活動で利用者が増えるような取組であったりとか、それこそラッピングトレインで、こういう電車に乗ってみようとか、市のPRとか含めて、利用者増を含めての値下げの話になるのかなというふうに私のほうでは認識しているところなので、御理解いただければと思います。

**【都市計画課長】**

先ほど委員のほうから、ラッピングトレインの反響とかはどうだったのでしょうかというところで、マスコミなどにもかなり取り上げられて、出発式なども行いまして取り上げられたところがございますので、そういった効果もあったのかなというふうに考えております。

また、委員も乗っていただいたということですが、市民の方からも、乗りましたよというお声がけをいただいたり、一定の反響があったのかなと考えております。この事業としましては、市単独で行ったものではなくて、沿線6市が協力のもと、北総鉄道と協力のもと行ったような事業になりますので、鉄道を盛り上げていくとなると、市単独ではなかなか難しいので、北総線沿線地域活性化協議会という協議会がございますので、そちらを通じて何かやればというふうに考えているところです。

以上になります。

**【委員】**

ありがとうございます。

**【会長】**

参考までに伺えればと思うのですが、北総鉄道のほうは、地域の活性化については、かなり積極的ですか。というのは、県内のいろいろな鉄道事業者を見ても、かなりそこは分かれるのですよね。地域のことなんか全く考えていないのではないかと、ただ単に採算しか考えていないようなところもあれば、むしろ地域住民とタッグを組んで、地域もどんどんその鉄道を応援していく。ローカル鉄道なんかはそういう傾向が非常に強いですが、北総開発は、ローカル鉄道では多分ない括りなのかどうか、よく分かりませんが、どういうイメージでその沿線の活性化ということを考えようとしているのか、そこに鉄道会社がどんなふうな貢献をされようとしているのかというあたりが、どうも見えてこないのですよね。その辺は、今どんな状況なのでしょう。

**【産業振興課長】**

産業振興課のほうで駅周辺地域活性化事業というのを持っているのですが、2ペ

ージの地区まちづくり協議会のところに、15番、16番で西白井、白井両地区でまちづくり協議会ができたのです。これは再開発ではないのですけれども、駅周辺の施設の再編ということで、再編して活性化をしていきたいと思いますということで、事業の主目的はそういう目的なのですが、実は北総鉄道と協定を結んでおりまして、活性化に向けた協定を結んでおりまして、現在は、2か月か3か月に一遍ぐらいなのですけれども、去年、今年までは、1か月に1回集まって勉強会をしていました。活性化に向けて進めていきたいと思います、それはやはり乗降客数を増やすためです。ですので、一応、北総鉄道を前向きにやっているという一例を産業振興課から挙げさせていただきました。

**【企画政策課長】**

今、一例として、産業振興課の課長の説明がありましたけれども、絶対的に、例えば白井、西白井の駅もそうですけれども、市の展示物を置かせてもらったりとか、そういうことは全然気軽に受けてくれたり、北総鉄道との関係性というのはとても良好で、とても協力的な姿勢ではあると、私どもは思っています。具体的に示してくれといわれても、なかなか今すぐには出てくるものはないのですけれども、すぐに、いろいろと遠慮なくお互いに連絡できる関係でもありますし、いい関係なのかなとは思っています。

以上です。

**【産業振興課長】**

一個漏れていました。去年なのですが、4月から群青のファンファーレというアニメがあったのですが、日本で唯一のJRAの競馬学校を舞台にしたアニメだったので、そういうものを活用して乗降客数を増やそうということで、そういう活動も北総鉄道と一緒にやっています。残念ながら視聴率があまりよくなかったのも、それほど盛り上がらなかったのですけれども、そういう活動もしています。以上です。

**【会長】**

この辺もどう考えればいいのか分からないのですけれども、北総開発の乗降客って、これ以上増えますか。つまり、通勤、通学の方々がいて、プラス何を見込むのですか。観光客を見込むのか、それとも白井住民が北総開発に乗る数を増やすのか。どこに狙いがあるのですか、乗降客を増やすというのは。それとも白井駅、西白井駅に降りて、そこで買い物をしてもらう、様々な活動をしてもらうという人、これは市外ですかね。そういう市外から白井駅、西白井駅に向けて来てくれる乗降客を増やすのかという、どこに焦点が合わされているのでしょうか。

**【産業振興課長】**

産業振興面からの回答、私からできるのはそれだけなのですが、駅周辺地域活性化事業というのは、そもそも活性化、活性化のために何が足りないかとか、そういうエビデンスの調査とかもやっているのですけれども、例えば人口密度が、そもそも商業施設が入らな

いということは、人口密度が低いということですので、では人口密度を上げましょうかというエビデンスにもなりますので、そういう社会実験、キッチンカー使った社会実験もやっています。駅前の人口密度を増やすということは、白井市から外に向かった乗降客数を増やすということにもなりますし、例えば、午前中お話しした熊本のTSMCですか、近隣の企業からも引っ張られるぐらいのかなりの従業員数がありますので、そういう事業者を企業誘致で誘致することで、市内工場も増やしますし、外からの事業施設も増やせる、これで乗降客数を増やすと。内から外に出る分、外から白井市に来る分、産業振興の面からいえば、そういう形で乗降客数は増やせるのかなと考えています。産業振興面の回答は以上です。

**【都市計画課長】**

鉄道のほうの活性化というところで、例えば去年、先ほどもお話に出ましたけれども、活性化トレイン、ラッピングトレインなんかにつきましては、この電車、羽田空港まで乗り入れておりますので、そういったところで目に触れていただいて、若い世代の流入につなげたいといった目的もありまして、市をPRをして、若い世代に沿線に住んでもらうというところも踏まえての事業となっております。

また、昨年度から復活みたいな形になるのですが、北総秋まつりというのを秋にやりまして、この4月30日には、北総春まつりというのも行ったのですが、春まつりから白井市も参加させていただいた形になるのですが、そういったところでもニュータウン地区のPRを行って行って、盛り上げて行って、若い世代の流入ですとか、そういった外からも知ってもらおうようなところで考えているというような事業となります。

以上です。

**【会長】**

ありがとうございます。

そろそろ時間ですので、いろいろ今やり取りをさせていただいて、事業の展開状況も大分理解、皆さん進まれたかと思えますし、併せていろいろな課題も見えてきたかなど。今のこの事業のままでいける部分と、もっとこんなことをしたほうがいいのか、いろいろお考えになったところもあるかと思えます。

次回の審議会では、それらを踏まえた上での意見交換となりますのでよろしくお願いたします。

今日の審議会は以上で閉じさせていただきたいと思えます。お疲れ様でした。